

# 2年目の挑戦！

～ノーリフティングケアの浸透を目指して～

社会福祉法人 百友会  
地域密着型特別養護老人ホーム  
フレンドビーチちはや

## 1年目を振り返って

### ①委員会の発足



➤施設長を中心にチーム結成！  
➤3月に新メンバー追加  
福祉用具・教育担当→PTが就任  
プランニング→2名体制に

### ②福祉用具の導入・活用



・スライディングボード  
・フレックスボード  
・スライディンググローブ  
・スライディングシート  
の導入

### ③教育



➤施設内で技術研修を開始！  
(リンクメンバーへの教育)



介助される側する側、お互いに安楽な事が分かった



今までのケアには戻りたくない

## 1年目を振り返って

その一方で課題も…。



教育体制が確立できていない

統一したケアが  
徹底できていない

福祉用具の適切な使用が  
一部できていない

職員間でノーリフティング  
ケアに対する意識の差がある  
→腰痛予防の意識が薄い

## 教育担当の取り組み

### ① 令和4年度 福岡県ノーリフティングケア普及促進事業

指導者育成のための技術強化研修に参加

→指導の質 UPI ↑



### ② 介護技術チェックリストを用いた技術チェック

→「ノーリフティング実践マニュアル」を元に施設独自のチェックリストを作成

### ③ 指導計画の立案～実践

→技術チェックの結果を元に計画立案



**実践** 全職員が福祉用具を適正に使用できるために…

①課題抽出

新入職員



ボードとシートが上手く使えない

先輩



何度も説明しているけど…

②研修計画の立案

委員会で研修内容を決定

ここがポイント

- ✓月1開催（2日に分けることで参加率UP!!）
- ✓就業時間後の30分（時間外手当あり!）
- ✓全職員対象（事務職員も参加!!）



腰痛予防への取り組み

腰痛者の割合



- 常に痛い
- 時々痛い
- 腰が疲れやすい
- 全く痛まない

腰が疲れやすいと回答した職員(減)  
全く痛まないと回答した職員(増)

→腰痛の有無に大きな変化はみられず



個別面談



福祉用具の導入



腰痛予防への取り組み



床走行式リフトが導入された!!



床走行式リフトを安全に使用する為に… マニュアル作成

- 職員がマニュアルを意識して行動するようになった
- リフトへの関心が少しは高まった



移乗用リフト使用中の事故が起きないように…

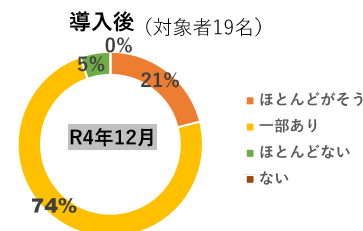
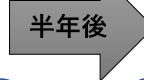
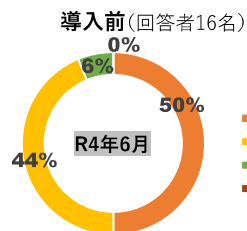
全体指導（希望職員には個別指導も実施）

↓  
実技試験の実施

↓  
合格職員は1人で操作可能に!

技術試験合格者一覧表

リフト導入後の変化(抱え上げ介助)



半数が“ほとんどがそう”と回答

移乗介助中に発生したと考えられる皮膚剥離等の事故が多発!!!

“ほとんどがそう”と答えた職員が減少

リフトの技術試験に合格できていない職員 →一部あり(多)

抱え上げ介助は少しずつ減少していた!!

課題 しかし、リフトを1人で使用可能な介護職員は極僅か… (5名/22名)

## リスクの抽出



付箋に記載し専用ファイルに綴じて共有していた小ヒヤリ

**課題** 徐々に枚数が低下…。見返す職員が少ない…。



委員会で共有方法を再検討

ルーズリーフに記載し業務日誌に綴じる

職員からの声

- ・付箋の時より見返すようになった、見返しやすくなった
- ・気づきが多くあがるようになった



事例

作業台が高くて立ったままの記録は腰が痛い…



**問題解決**



⇒作業台に合う椅子を設置座って記録ができるように！

## 統一したケアが提供できるように

介護職員

24時間シートの作成

プランニング担当

施設サービス計画書の作成



24時間シート、計画書に沿ったケアの実践



専門職が中心となって評価

専門職同士の情報共有



修正・改善が必要な場合は紙面にして周知  
(居室への掲示等)

担当者会議にて協議

## まとめ

教育体制が確立できていない

- ✓施設内研修の継続◎
- ✓課題の抽出（委員会・アンケート）→研修計画の立案→実践◎
- ✓研修後の振り返り・指導側の統一▲

統一したケアが徹底できていない

- ✓24時間シートの作成～活用◎
- ✓多職種連携◎

福祉用具の適切な使用が一部できていない

- ✓施設内研修での指導◎
- ✓床走行式リフトの浸透▲

職員間でノーリフティングケアに対する意識の差がある→腰痛予防の意識が薄い

- ✓腰痛体操の継続◎
- ✓抱え上げ介助▲

## フレンドピーチはやの未来

☆☆施設全体のノーリフティングケアへの意識が高くなった2年目☆☆

- 移乗介助中にできた可能性のある皮膚損傷（打撲・剥離）の事故報告が減少  
**11件（1年目）→6件（2年目）**
- 多職種の連携が密になった
- ノーリフティングケアが“**当たり前のケア**”になりつつある

### 3年目以降の目標

- ・法人全体にノーリフティングケアを浸透させる
- ・教育マニュアルの作成（指導側の統一化を図る！！）
- ・床走行式リフトを浸透させる（稼働率22%→70%以上へ）
- ・抱え上げ介助「0」、腰痛保持者「15%以下」

